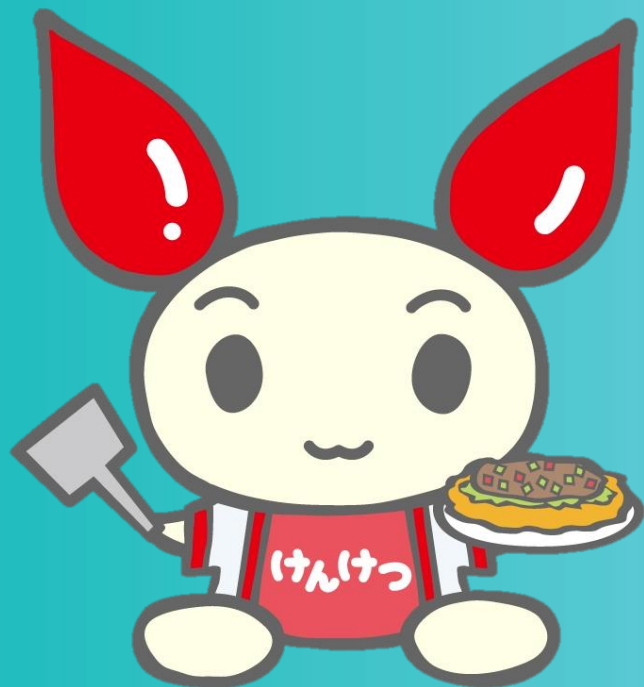


広島県における 献血推進の取組について



令和5年10月23日
広島県健康福祉局薬務課

本日の話題

広島サミットの輸血用血液供給体制

若年層に対する献血推進の取組について

令和5年度広島県献血推進計画への反映

●災害時等における血液製剤の確保

5月に開催される「広島サミット」に向け、県は、採血事業者と連携し、災害及び不測の事態が発生した場合の救護に必要な血液製剤を確保するとともに、その供給体制を整備する。

G7「献血活動縮小」不測の事態に備え血液製剤を多く確保へ

04月21日 17時23分

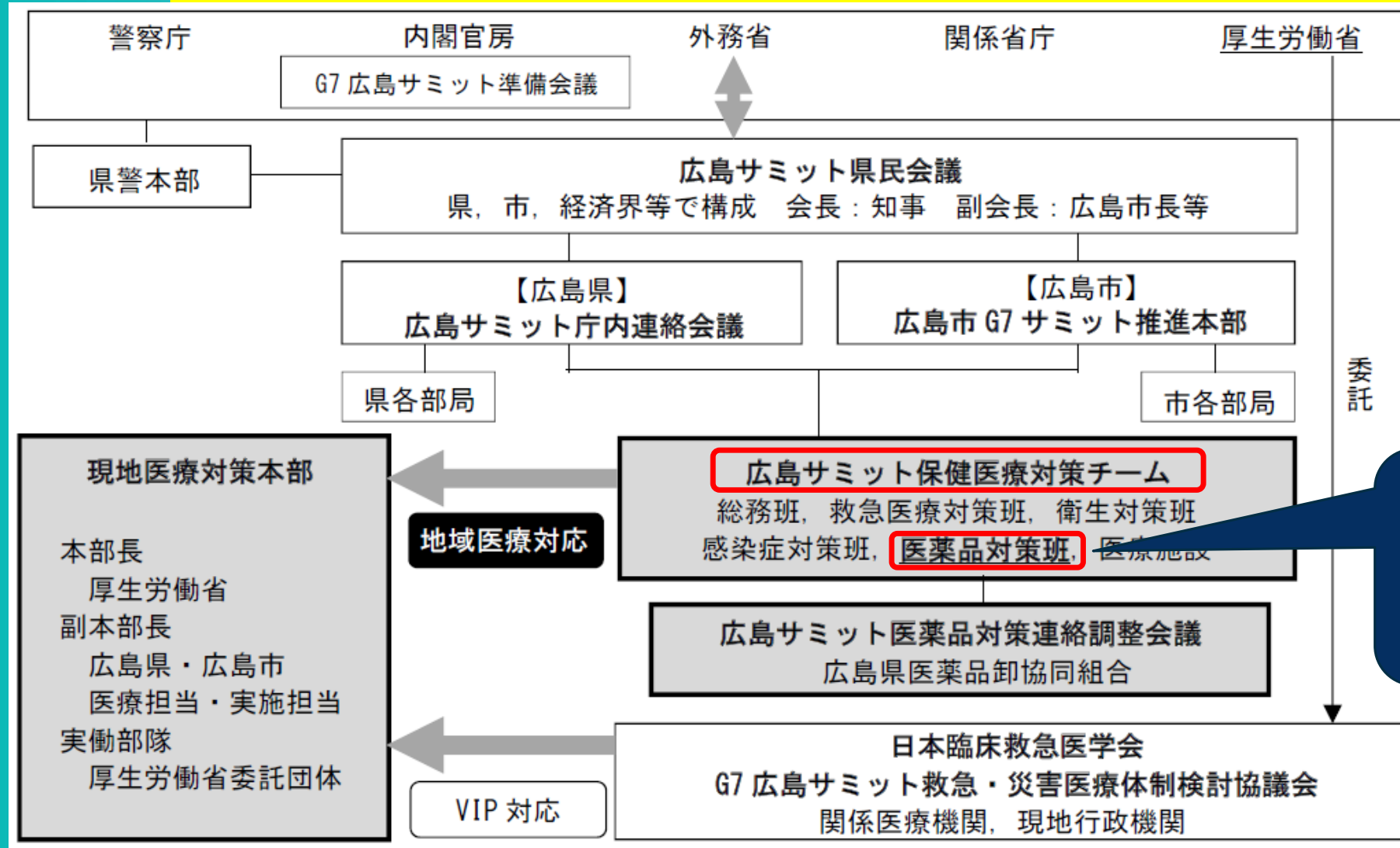


G7広島サミットに伴う交通規制などの影響で献血の活動が縮小を余儀なくされる中、広島県などは輸血が必要になる不測の事態にも備えて、血液製剤を通常より多く確保する準備を進めていることが分かりました。

G7広島サミットが開かれる期間は、警備に伴う交通規制などの影響で献血バスの運用をとりやめるほか、献血ルームの稼働も縮小を余儀なくされる見通しです。

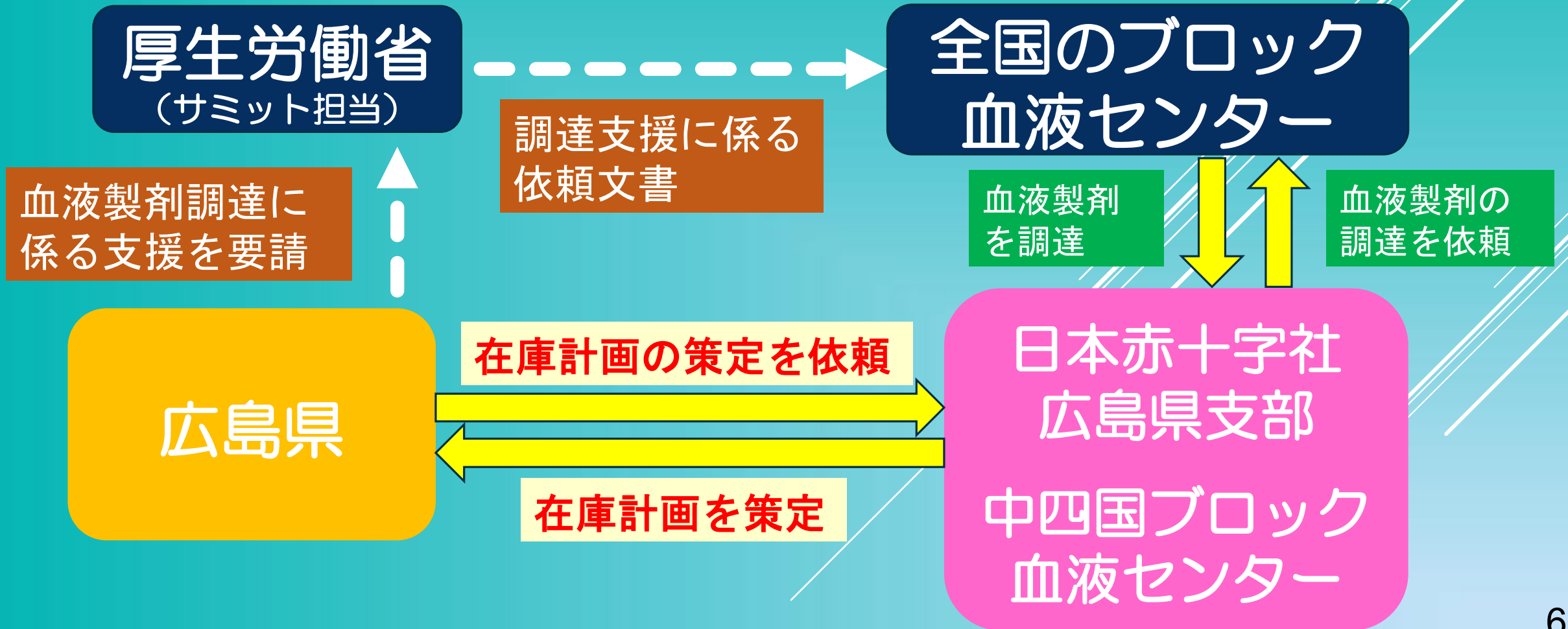
さらに、輸血が必要になるような不測の事態が起きた際にも安定的に血液を供給できるように、広島県と県赤十字血液センターなどは、血液製剤を通常より多く確保する準備を進めていることが分かりました。

広島サミットの実施体制（医療分野）



医薬品（血液製剤を含む）の備蓄・供給
毒物劇物に関する安全対策

日本赤十字社との連携



広島サミット血液製剤在庫計画

中四国ブロック Rh(-)「赤血球」保有在庫

通常保有在庫

※本数=400ml

	A型	O型	B型	AB型	合計
単位	58	44	38	32	172
本数	29	22	19	16	86

サミット時保有在庫（目標）

※前回、前々回のサミットと同数とする

	A型	O型	B型	AB型	合計
単位	100	120	50	30	300
本数	50	60	25	15	150

強化本数

	A型	O型	B型	AB型	合計
本数	21	38	6	0	65

総括・反省点

野外救護ユニット（仮設の医療施設）へのO型Rh-血液製剤の供給について、国と県で認識の齟齬があったため、調達がサミット開催日の直前となった。

【国の要請】 計画在庫量とは別に20本を調達

【県の認識】 計画在庫量の中から20本を施設に供給

本日の話題

広島サミットの輸血用血液供給体制

若年層に対する献血推進の取組について

令和5年度広島県献血推進計画

令和5年度広島県献血推進計画は、令和5年3月28日に策定。(一部抜粋・要約)

イ 若年層を対象とした普及啓発

(ア) 普及啓発資材の作成

- 普及啓発資材を作成し、教育委員会等と連携して、県内の高校3年生に配布する。

(イ) 効果的な広報手段等を活用した取組

- 学生献血推進ボランティア等の働きかけや、普及啓発資材に献血推進キャラクターを活用する等、実効性のある取組を行う。
- 献血啓発資材の作成に際して、SNSを含むインターネット上の情報にアクセスしやすい工夫をし、目に触れる機会を増やす。
- 広島県献血推進ポスターの図案を募集する。

(ウ) 献血セミナー等の実施

- 学校等に情報提供を行うとともに、ボランティア組織と連携を図る。また、「ラブラッド」を周知するとともに、継続的な献血の協力を呼びかける。

(エ) 学校等における献血の普及啓発

- 学生献血推進ボランティアとの更なる連携を図り、学校等における献血の推進を促す。

ウ 幼少期の子どもとその保護者を対象とした普及啓発

- 保護者と子どもと一緒に献血に触れ合える見学会及び出前講座等の啓発を行う。

令和5年度広島県献血推進計画

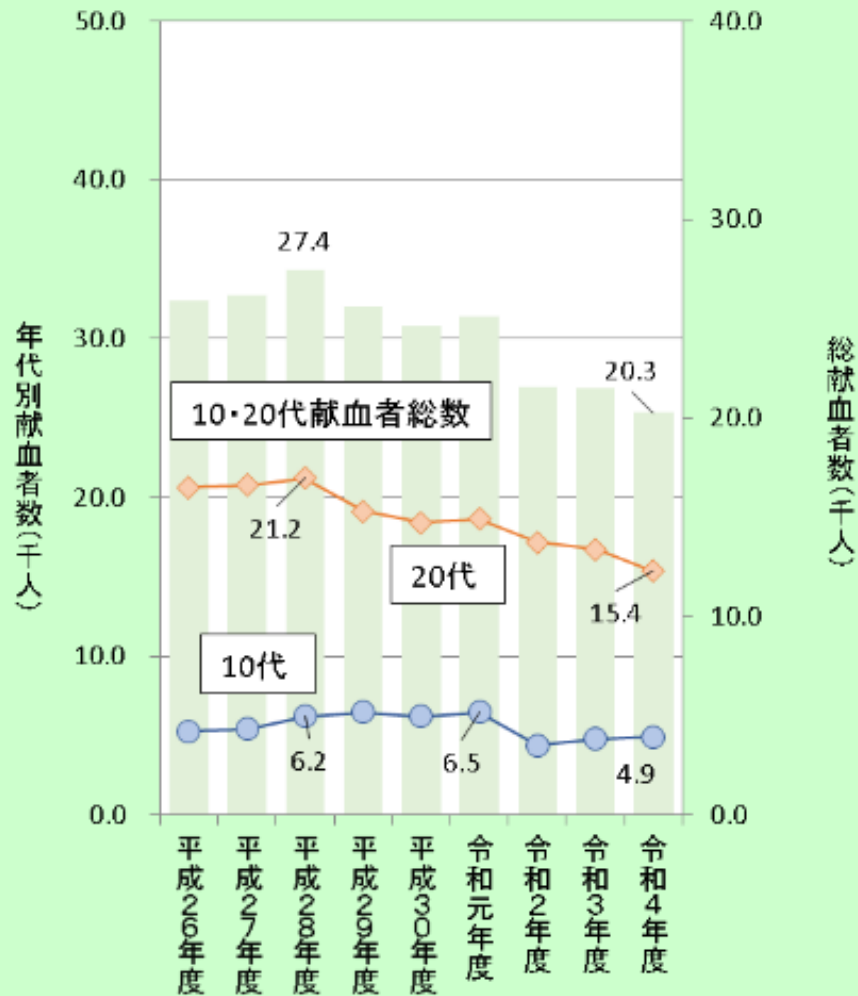
広島県

(令和5年3月28日策定)

若年層に対する献血推進の取組について

令和5年度広島県献血推進計画

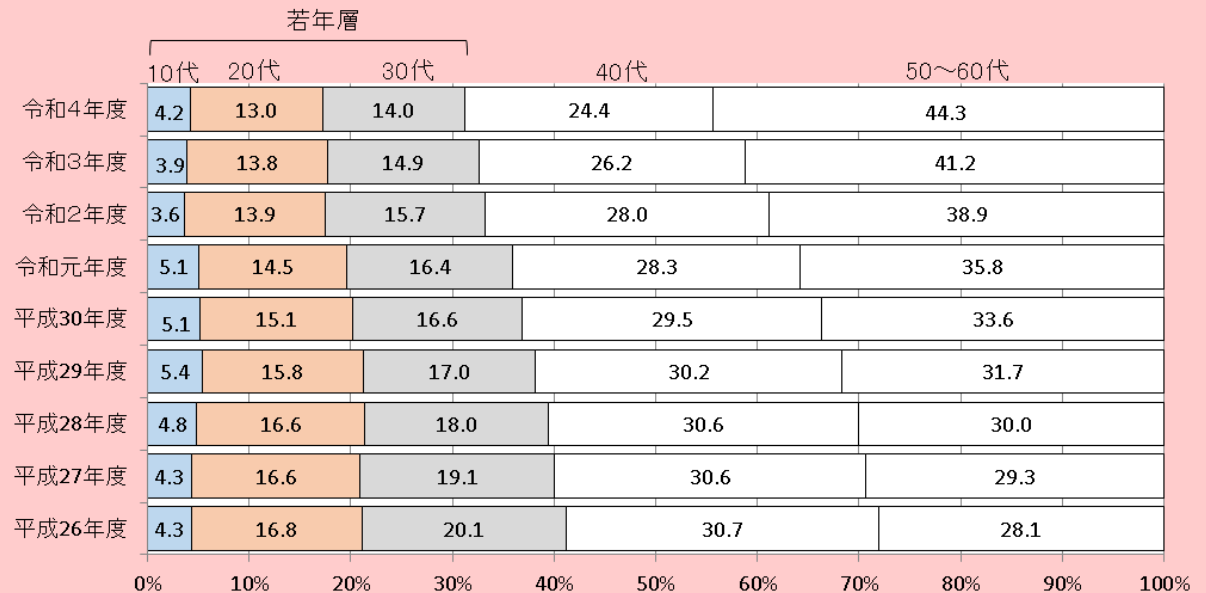
【広島県内における10代・20代の献血者数の推移】



20代の献血者数は、年々減少傾向にあるが、10代の献血者数は令和元年度には届かないものの、僅かながら増加に転じている。

10代から30代を合わせた若年層の構成比率は、年々減少傾向にあり、全体の1/3を割り込んでいる。

【広島県内における献血協力者年齢層別構成比率の推移】

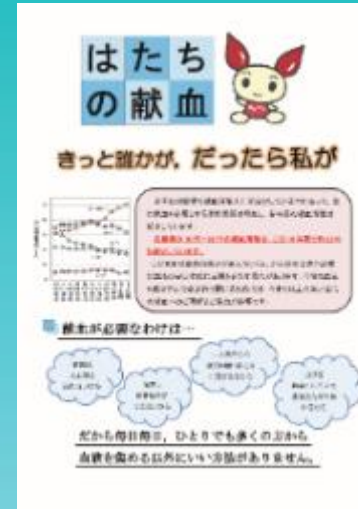


若年層に対する献血推進の取組について

普及・啓発資材の作成

■「はたちの献血」キャンペーンチラシ

県内の「はたち」の若者を中心とした若年層の献血推進を目的とし、市町が実施する成人式の式典・イベント等において、新成人等に配布している。



■高校生対象「18G（ゲージ）を乗り越えろ！」

・クリアファイル入りパンフレット及び献血キャンペーンポスター

県内の高校3年生を対象にクリアファイル入りパンフレット「18Gを乗り越えろ！」を作成配布し、1月～3月に実施している高校生限定のキャンペーンポスターを各高等学校に配布している。



若年層に対する献血推進の取組について

普及・啓発資材の作成

■ 高校生対象「18ゲージを乗り越えろ！」

・高校生限定キャンペーン

令和元年度から毎年度1月から3月まで、県内の献血ルーム2か所で高校生限定キャンペーンを実施している。

キャンペーンの際には、献血ルームに来てくれた高校生に県内の障害者就労施設で作成したお菓子をプレゼントし、献血を終えた感想やメッセージも書き込んでもらうアンケートや記念写真の撮影を実施している。

感想やメッセージ、記念写真は県の専用ホームページに掲載し、次年度の献血啓発資材に活用している。

また、今年のキャンペーン期間中に、湯崎知事が若者向けのラジオ番組に出演し、高校生キャンペーンや献血について幅広く情報を発信した。



若年層に対する献血推進の取組について

献血推進ポスターの募集と入賞作品の展示

県内の中学校、高等学校及び特別支援学校（中学部・高等部）の生徒を対象に、献血推進ポスターのデザインを募集している。

入賞者16名については、県の献血功労者と共に表彰伝達式を行い表彰を行っている。入賞者には、賞状および副賞（図書カード）を贈呈し、応募者全員に参加賞をお送りしている。

入賞作品については、県庁、献血ルームをはじめ県内各地で商業施設等の展示の他、デザインを使用した献血啓発資材等を作成している。

今年度の表彰伝達式では、「輸血享受者感謝のことば」として県医師会の常任理事で広島県献血推進審議会の会長でもある落久保（おちくぼ）裕之氏から、御自身の体験談と感謝のことばをいただいた。

【広報用募集ポスター】



【第24回 最優秀賞作品】



【広島県庁内での展示(一部)】



【表彰式プログラム】



【広島県献血推進功労者等表彰伝達式】



若年層に対する献血推進の取組について

学校における献血セミナーの開催

広島県赤十字血液センターが若年層を対象として実施する「献血セミナー」への協力について、県教育委員会をはじめ各市町教育員会、関係機関に依頼している。

また、学生献血推進ボランティアとの連携を図り、学校等における献血の推進を促すとしている。

【献血セミナーの実績】

(中・高校生)

R元年度 31回(5,121人)
R2年度 6回(2,134人)
R3年度 14回(1,760人)
R4年度 10回(1,732人)

【学校献血の実績】

R元年度 51校
R2年度 27校
R3年度 31校
R4年度 40校



模擬献血・出前講座

次世代の献血者を育てていくため、保護者と子どもと一緒に献血に触れ合える、広島県赤十字血液センターによる商業施設での模擬献血や出前講座の推進啓発活動を行っている。

県政記者クラブにプレスリリースの依頼や、県庁内グループウェアによる掲示板を活用した広報を行っている。



これからの課題

若者（学生）のコミュニケーション促進

⇒ 生徒会交流等を通じ、献血活動を展開できないか？

献血Webサービス『ラブラッド』の普及

⇒ 献血の待ち時間を利用した登録案内ができないか？

おわりに (国への要望)

- 献血取組事例の自治体担当者間での共有
- 学校教育の場での献血の普及促進